

# 『すべての原点は会計にある』

## 加茂商議所で中小企業会計啓発セミナー

中小企業経営者や経理・財務担当者を対象にした中小企業会計啓発・普及セミナーが、二月二十七日午後一時四十五分から同商工会議所で開かれ、加茂市旭町、税理士法人山口会計パートナーズ所長の山口昇さんが、「会計」を『経営』に活かす！』をテーマに講じた。

切な会計処理による決算書の意義、活用方法について理解を深めてもらうと開催したもの。山口さんはこの日、中小企業の抱える課題、決算書の見方や生かし方、平成三十年度の税制改



山口さん

山口さんはセミナーの冒頭、「中小企業の最大の課題は、事業承継。そのため後継者にとって魅力のある会社、黒字でお金がいつばいあって、地域に貢献できる仕事をし、社員が

わくわくして仕事をしたい。そのような会社にならなければいけない」とし、「そのためには会計、決算書をいかによくするか。すべての原点は会計にある」と主張した。

続けて、「日々の会計と統括して、日々の会計と正しく認識することで会社がよくなったり、悪くなったりする。決算書は、銀行や税務署に出すために作るのではなく、経営者が自らのため、明日からの経営のために作るもので、いかにそれを咀嚼(そしゃく)して生かすか、それがすべてだ」と決算書の意義を説くと同時に、「数字を見ないで、数字を見ない

いで経営されていたらつしやる方がいい。その辺を意識せず、ただ営業したり、製造したりとやっている場合が、案外多い」と指摘した。

よりよい会計のための、今すぐ実践できるチェックポイントとして、「毎月の業績、例えば二月なら翌月早々、十日くらいまでには把握できているか」、「月次の決算は発生主義、つまりお金を集金したときの売り上げではなく商品を取

るところ」というのは全体の「割合二割」、「効率を見るためにも一人当たりの粗利、付加価値を正確に言えるか」、「しっかりと経営計画書ができていないか」などを挙げた。

決算書については、損益計算書よりも財政状況の大局がつかめる貸借対照表を重視すべきと強調。貸借対照表の主な見方として、多額の設備投資などにより固定資産が大きく膨らんだことで財務の安全性が低下すると「肥満による高脂血症」、おろそかな在庫管理によって棚卸資産が必要以上に増え、資金繰りが悪化するなら、「糖尿病」などというふうに、代表的なバタ

「山口さんは、このように、数字を見ないで、数字を見ないで経営されていたらつしやる方がいい。その辺を意識せず、ただ営業したり、製造したりとやっている場合が、案外多い」と指摘した。

よりよい会計のための、今すぐ実践できるチェックポイントとして、「毎月の業績、例えば二月なら翌月早々、十日くらいまでには把握できているか」、「月次の決算は発生主義、つまりお金を集金したときの売り上げではなく商品を取

るところ」というのは全体の「割合二割」、「効率を見るためにも一人当たりの粗利、付加価値を正確に言えるか」、「しっかりと経営計画書ができていないか」などを挙げた。

決算書については、損益計算書よりも財政状況の大局がつかめる貸借対照表を重視すべきと強調。貸借対照表の主な見方として、多額の設備投資などにより固定資産が大きく膨らんだことで財務の安全性が低下すると「肥満による高脂血症」、おろそかな在庫管理によって棚卸資産が必要以上に増え、資金繰りが悪化するなら、「糖尿病」などというふうに、代表的なバタ

を人間の健康状態に例えて説明した。山口さんは、「よく社長様に『業績はどうですか』と聞くと、だいたい『この計画書ができていないから売りが上がった』と、八割方が売りが上がった話、私としては、資本がいくらなのか聞きたい。例えば、『資本が五千万円から七千万円になつて、現金も二千万円増えた』という経営者は素晴らしい。いくら売りが上がっても、トータルで赤字なら意味がない。売りが上がる、目的であり手段。売りが減つても利益が上がるなら、それがかまわない」と呼びかけていた。

(山口)

